

令和 7 年度 取組内容及び自己評価への学校協議会からの意見

A 確かな学力の育成について

- ・グローバル化が進展する中、英語検定の合格率向上は重要な課題である。高校 2 年末における英語検定 2 級の合格率は大きく減少しており（12.3%→14.0%→6.7%）、準 2 級の合格率も低下している（46.1%→46.4%→40.9%）。2 級合格率の目標である 35%には依然として届いておらず、目標を維持しながら、まずは 20～30%への向上を図り、最終的には 35%以上を目指す必要がある。そのため、日常の授業改善と英検対策の両面から、特に課題となっているリスニング指導の充実を図ることが望まれる。また、GTEC や TOEIC にも積極的に取り組み、多様な検定への受験機会を設けることで、英語力全体の底上げにつなげてほしい。
- ・漢字検定では、準 2 級以上の合格率は昨年度に目標の 50%を大きく下回ったものの、本年度は回復傾向が見られた（52.6%→31.7%→42.9%）。また、準 2 級の合格率も同様に改善が見られ（47.3%→29.6%→36.9%）、3 級合格率についても昨年度の大幅な減少から回復した（85.5%→62.7%→84.6%）。今後は、生徒全員の 3 級合格を目標として取り組むことも重要である。
- ・数学検定では、準 2 級の合格率が大幅に向上した（23.2%→33.8%→61.3%）。また、一昨年度は 0 名であった 2 級合格者も大きく増加した（0%→3.0%→13.4%）。今後も文系・理系を問わず合格率の向上を図り、数学的な思考力・基礎学力の定着につなげていくことが重要である。

B 進路希望の実現について

- ・進路情報の提供や進路説明会の実施回数・内容については、高い評価が継続して得られている。他の私立高校と比較しても、「丁寧に対応してくれている」という印象が際立っている点は評価できる。
- ・本校としては、難関国立大学（東京大学、京都大学など）を目指すというよりも、多くの生徒が近畿大学をはじめ、大阪公立大学、大阪教育大学、和歌山大学などの地元国公立大学へ進学できる体制を充実させることが重要である。
- ・近畿大学進学者に対しては、進学後の状況調査や継続的な指導を実施しており、留年者や中途退学者の減少に一定の効果が認められることから、今後も継続して実施することが望ましい。また、「近畿大学泉州高等学校」という校名に冠する「近畿大学」のブランド力は大きな強みである。近畿大学への進学者が 50%以上となるよう、更なる取組を期待する。

C リーダーシップ・人間力を高める取組について

- ・生徒会および生徒会ボランティアスタッフの活動の幅が広がっていることは評価できる。今後は、各種学校行事の運営を生徒会が主体的に担い、教員の適切な支援のもとで、生徒の主体性・創造力・表現力をさらに伸ばしていくことが望まれる。また、地域住民も参加できる行事や地域と連携したボランティア活動を充実させることで、生徒の社会性や人間力の更なる向上を期待したい。加えて、生徒が企画・運営に主体的に関わる場面を一層増やし、リーダーシップや課題解決力、協働する力の育成につなげてほしい。
- ・リーダー養成については、大学教育との役割の違いも踏まえながら、高校段階で育成すべき資質・能力を整理し、グローバルな視点も意識した教育活動を積極的に推進することが望まれる。
- ・人間力の涵養については、本校生徒は入学後比較的短期間で礼儀や挨拶の習慣が身に付いている点が高く評価できる。今後も日常の教育活動を通して、自主・自立の精神を育み、「愛される人」「信頼される人」「尊敬される人」の育成につながる教育内容の充実を図ることが望まれる。

D グローバル化への対応について

- ・ハワイでの修学旅行に加え、長期・短期を含む 4 種類の海外留学（語学研修）プログラムなど、多様な国際交流の機会が設けられていることは評価できる。一方、物価高や円安の影響により参加者が減少していることから、費用負担や実施方法を工夫し、生徒が参加しやすいプログラムとなるよう検討してほしい。
- ・ハワイ修学旅行についても、平和学習に加え、現地での英語による交流や異文化理解を深める活動をさらに充実させることを期待する。
- ・国際交流の成果を学校の特色として積極的に発信し、生徒募集にもつなげてほしい。また、費用対効果にも配慮しながら、時代のニーズに即した魅力あるグローバル教育を推進していくことを期待する。

E 地域・保護者との連携、社会貢献について

- ・文化祭の地域開放や税に関する作文への取組など、地域との連携を継続していることは評価できる。コロナ禍以降減少している地域行事への参加についても、自治会等と連携しながら、だんじり祭や地域清掃活動などへの協力を段階的に再開していくことを期待する。
- ・ホームページを活用した積極的な情報発信は評価できる。今後は、町内会の回覧板や地域の掲示板なども活用し、地域住民への情報提供をさらに充実させてほしい。

F 健全な経営状況の維持について

- ・少子化が進行する中、生徒募集の強化は重要な課題である。教育内容や進学実績、ICT 教育、国際交流など、本校の特色を積極的に発信し、学校説明会や広報活動の一層の充実 に努めてほしい。
- ・ICT 環境や施設整備を計画的に進めていることは評価できる。今後も、生徒の安全・安心を最優先としながら、中長期的な視点で教育環境の充実を図ることを期待する。
- ・スクールバス事業の見直しによる大幅な収支改善は高く評価できる。今後も経営の効率化を進めるとともに、教育活動の質の向上との両立を図っていただきたい。
- ・私立学校を取り巻く環境は一層厳しさを増しているが、「近畿大学」のブランド力と特色ある教育活動を生かし、安定した学校経営の維持・発展に努めることを期待する。

以 上

令和 8 年度 近畿大学泉州高等学校 学校協議会名簿

- 学外委員
- 1.本学園 P T A 会長    2.本学園後援会会長    3. 地域連合会会長（地域自治会長）    4.地域中学校校長    5.本校卒業生代表
- 学内委員
- 1.校長    2.教頭    3.事務長    4.総務部長    5.教務部長